

会報ふくおか

福岡県土地家屋調査士会

平成 25年 9月

目 次

- ・ 財 務 部 よ り 財務部長 佐 藤 周 作 P1
- ・ あわてんぼーのサンタクロースの取り組み
（児童養護施設での11月23日の餅つき） 朝倉支部 永 田 哲 哉 P2
- ・ 囲碁をはじめましょう 八女支部 小 柳 旭 P4
- ・ 取りとめのない話 広報部長 田 崎 実 P7

財 務 部 よ り

財務部長 佐藤 周 作

本年度より1期2年再び財務部の部長を務めることになりました。

2年前初めて財務部長をすることとなった時、会費を値上げすることの無いよう財務基盤を構築して行きます、と述べました。しかし財務状況をしっかり把握してみると単年度赤字に陥っているのが判明しました。それから各部の協力の下、精一杯無駄な経費の削減を遂行してきましたが、単年度赤字の解消は無理でした。

財務を任された時一番してはいけないと思った会費の値上げを結局会員の皆様にお願ひすることとなってしまいました。今後財務基盤の確立のためのしっかりとした検討が必要ですが、この場をかりましておおまかな展望をお知らせしておこうと思います。

試算の条件を、平成26年度会員数680人、その後1年間で3人ずつ会員数が減少、雑収入2百万円、連合会費・支部交付金以外の支出6千百万円（本年度の予算の85%）、平成25年度繰越金1千万円としました。

この大雑把な試算によりますと、会費値上げをお願ひする平成26年度より単年度黒字となり、その黒字は平成41年度まで続きます。当然黒字分は繰越金として蓄積されていくわけですから平成42年度より単年度赤字となりますが、繰越金の額が平成25年度程度まで減少するのは、平成57年度となる予定です。もちろん何があつて特別な経費が必要になるかはわかりませんが、この試算だとあと30年は会費値上げなく財務運営ができそうです。また平成57年の想定会員数は、587人となり当然役員数等にも影響があると思ひますので県会の体制は現在より縮小されている、と思われまふ。必要経費も減少しますから30年後に会費を値上げする必要性は未知数です。

以上会費値上げ後の財務状況を大雑把な条件の基で試算した結果を記しました。もっと緻密な検討をすれば、この通りにはならないと思ひますが、一応会費値上げ後かなり長期間県会財務運営は安定するということが、わかっただければ幸いです。

会員の皆様におかれましては、今後とも県会の運営に格別のご配慮・ご協力を賜りますようお願い申し上げて、財務部からの報告とさせていただきます。

あわてんぼーのサンタクロースの取り組み 児童養護施設での11月23日の餅つき

朝倉支部 永田 哲哉

私の活動しているのは、異業種の集まりで「あつくてよかろーもん」というグループである。もう活動を始めて6年ほどになる。いままで、中村文昭講演会や田端俊久講演会、植松努講演会、東日本大震災支援あつよかフェスティバル、それに天神周辺ゴミ拾い、そしてこのあわてんぼーのサンタクロースの活動である。

今回は、このあわてんぼーのサンタクロースの活動に付いて報告したいと思う。

福岡の児童養護施設S園は100名ほどの子供達が暮らしている。

子供たちの入所原因は養育拒否、DVなどが多い。でも子供たちは親と暮らしたいと思っている子が多い。とっても優しい子供たちですぐに話し掛けてくる。

もう5年ほど、毎年11月23日になると「あわてんぼーのサンタクロース」の曲にあわせてオープニングセレモニーをする。分かっている子供たちは喜んでくれる。

毎年来ていたので、顔見知りの子供もいるが、来年も来るからねという言葉はかけにくい。



その日の一番のイベントは餅つきである。この餅は、僕らが杷木に田んぼを借りて毎年手植えの田植えをしほとんど無農薬で育てている。食味を良くするため油粕を散布している。毎年新米のお米で餅つきをするのでそのうまさは半端ない美味しさである。



余ったお米は活動資金のため販売するのであるが、ある自治会は毎年購入していただくが、同じ調査士の餅つき会をしている方にお話したらお宅のは高いといわれ苦笑した思い出もある。このようにいろんな考えがあるのは当然なことではある。

確かに買った方が安いのだが、農業体験をする意義、子どもたちとの繋がりを思いながらの農作業、そして思いのこもった米での餅つきとなり一年を通した活動が展開されるのである。私の事務所も全員この餅つきには参加しているが、学びは多いと思っている。

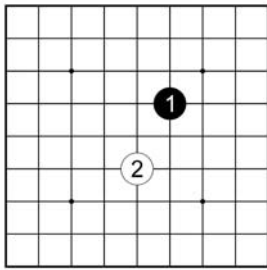
農地を測量することも多いが土地代50万円測量代40万円とかになると測量代が高すぎると怒られる。荒廃農地をなくし農業の活性化をすることが自給率も高めるし資産価値も上昇するのではないかと思う。この活動は楽しみながらやっているが、それから派生する効果は大きいと思っている。

興味ある人は私までご連絡を下さい。

囲碁をはじめましょう

八女支部 小柳 旭

福岡県土地家屋調査士会には囲碁愛好会が存在しますが、人数の減少もあってか、ここ数年活動されていないようです。年一回専門職団体連絡協議会の囲碁大会が開催されていますが、調査士会からの参加も少しずつ減ってきています。専門職団体連絡協議会の囲碁大会や愛好会の参加者が増えるように、皆様に少しでも囲碁に興味を持っていただけたらと思います、囲碁と土地家屋調査士を結びつけて適当に書いてみたいと思います。

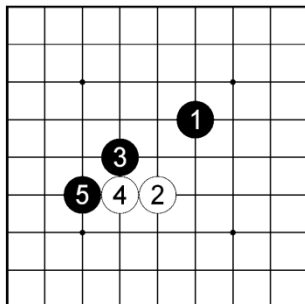


基本的なルール等は基本書に譲りますので、流れだけの簡単な説明に留めたいと思います。

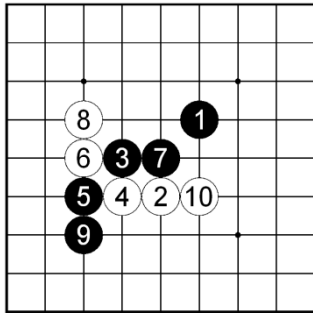
まず、囲碁とは、黒石を持つ人と白石を持つ人が、お互いに順番に石を置いていき、最終的に囲んだ陣地の数が多い方が勝ちとなります。土地家屋調査士的にいえば、お互いに杭を一本ずつ入れていき、杭を結ぶ境界線でできた土地の面積が広い方が勝ちといえわかりやすいでしょうか。

今回は手数が少なくなるように9路盤でやってみようと思います。

黒から先に石を置き、交互に石を置き進めていきます。ちなみに、大昔は黒を持つ人が上手で、白を持つ人が下手といったルールがあったらしく（現在は白を持つ人が上手ですが）、「玄人」「素人」の意味はそこからきているものらしいです。他にも囲碁に語源がある言葉も多く、「一目置く」「駄目」「白黒つける」「布石」「定石」「捨て石」など他にもたくさんあります。昔、囲碁はもっと人の生活に関わり合いをもっていたのでしよう。



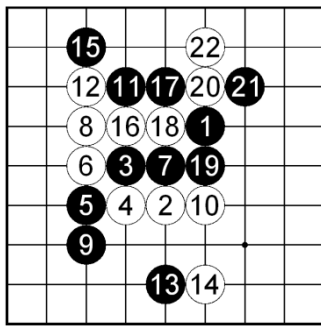
土地家屋調査士業をしていると、立会の際に人の欲といったものが感じられるかと思いますが、勝負事ですので囲碁にもそれが表れてきます。左図ですが、黒は3、5で、中央より下側に侵入し、より多く囲もうとしているように見えるかと思いますが、「左下隅は黒の土地だ！」というような所有者の発言が聞こえてきそうな気がしますね。



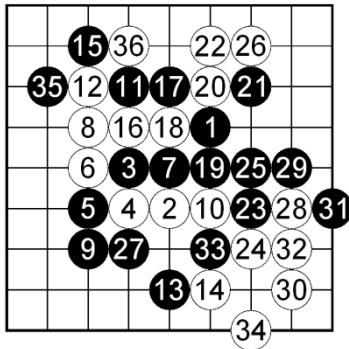
石が接近してくると、黒石を持つ人と白石を持つ人がお互いに陣地を取り合おうとするために小競り合いが起こります。

土地家屋調査士の実務でも、立会時に所有者がお互いに境界を譲らず、揉め事がおこるのと同じですね。

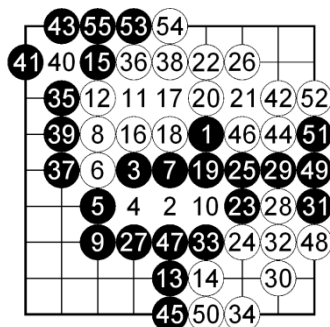
囲碁もゲームの流れによってはお互いに囲い合うだけで戦いが起こらないこともあります。土地家屋調査士の実務でも立会をしても争いが起こらず、すんなり終わることがあるのと同じです。



少し局面が進んだところです。少し慣れないとどうなっているのか分かりづらいですが、囲碁を何度かやっているうちにだんだんわかるようになってきます。パッと見て左下、右上が黒っぽい、左上、右下が白っぽいというのは感覚的に分かりいただけるかと思いますが、もう少し局面が進めば、お互いの陣地が分かりやすくなってきます。



更に10数手進めて見ると先程より段々陣地が分かりやすくなってきたかと思えます。



もう少し進んで終局となりました。1つずつ置いていった石が繋がって線になり、線が繋がって陣地ができたのがお分かりかと思えます。囲んだ陣地が多い方が勝ちとなります。

左図では黒の方が囲んでいる陣地が多いですので、黒の勝ちとなります。

最後に、20世紀を代表する囲碁棋士に呉清源という棋士がいらっしゃいますが、この方は「碁は調和の姿だと、私は考えます。碁は、争いや勝負と言うよりも、調和だと思えます。」とおっしゃっておられます。

実際、囲碁をやっていると相手の陣地が大きく見えて、少しでも相手の陣地を減らし、自分の陣地を大きくしようとしたくなります。しかし、そのような手はうまくいかないことも多いです。特に相手の方が強い場合には……。私も自分の欲を抑えて、相手との調和を考えることができれば、もう少し囲碁が強くなるのかなと思います。

更に、「調和」ということをキーワードに土地家屋調査士の実務を進めていけば、もしかしたら、もっと立会がスムーズに行くのかなと思います。

皆様も、これを読んで少しでも囲碁に興味をもたれたら、ぜひ囲碁の入門書を手に取りやってみてください。もしかしたら意外なところで土地家屋調査士の実務に役立つかもしれません。囲碁を始められましたらぜひとも囲碁愛好会にご入会ください。

取りとめのない話

広報部長 田 崎 実

会議等で福岡に出るときは、時間を買えるから新幹線を主に利用している。

事務所を出てから1時間程で県会に着くので本当に便利。新幹線に乗って楽しい事は途中のゴルフ場のフェアウェイとグリーンを見る事。ほんの1、2秒位で必ずチラ見するのだが、季節や時間帯などで色々な光景を目にする事が出来る。朝早いと誰もいないグリーンが寂しげ。10時頃だとフェアウェイにゴルファーがいたり、グリーンでパットをしていたり……。ここは若宮ゴルフクラブの13番ホール374ヤード、パー4で新幹線が見える名物ホールとして若宮ゴルフクラブのホームページのコース案内にも載っている。トンネルとトンネルの間だし、ほんの1、2秒だから見過ごすこともあり、ここを過ぎると5分ほどで博多駅に着く。ここが見えるように行きは左側の席、帰りは右側の席に座るようにしている。

帰りの新幹線でのこと、夕方おそらくは6時から7時位の新幹線（時刻をよく覚えていない）でトンネルを出てすぐにここがあるので、目を凝らしていると、下りの新幹線がすれ違い、全然見えない！この時ばかりではなく、3回程同じ上りの新幹線に乗っているのだが、必ず下りの新幹線がすれ違って見えない。見えないことの悔しさよりも、よく外国人が褒める運行時刻の正確さに感嘆。もう10秒速かったり、遅かったりしたら、ここが見えるのに……。この時ばかりは、あらためて新幹線の運行時刻の正確さを知ったゴルフ好きのおっさんでした。